

【富山税務署長賞】

「社会を支える税金」

富山県立富山商業高等学校二年 西村 剛

私は最近、税について学ぶ機会が多くありました。日常的にも税の大切さを感じることもありました。

税金とは国や地方自治体が公共サービスを提供するために、国民から集めるお金のことです。このお金は学校や病院、道路や公園など、私たちが使う様々な施設やサービスの運営に使われています。私たちが普段通っている学校も、税金で成り立っています。先生方の給料や校舎の維持費も全て税金で払われています。私の体験談を一つ紹介します。私は地域のボランティア活動に参加しました。その中で、公園を清掃する活動がありました。その時、公園の管理人の方から公園の維持や設備には多くのお金が必要なことを教えてもらいました。そしてお金の多くが税金から払われていることを知り、驚きました。普段、当たり前のように使っている公園が、税金のおかげでキレイに保たれていることを実感しました。

また、税金は医療や福祉の分野でも重要です。高齢者向けの医療サービスや介護施設も税金で運営されているため、家族全員が安心して生活することができます。もし税金がなければ、これらのサービスを受けることは難しくなると思います。

さらに、税金は災害時にも役立ちます。日本は地震や台風が多い国です。災害対策や復旧に多くのお金が必要になります。一月一日の能登半島地震があった時も、被災地への支援が行われ、多くの人々が税金によって助けられました。もし税金がなければ、被災地へ素早く支援することはできませんでした。このことから税金は重要な役割を担っていることが分かりました。

しかし、税には課題もあります。例えば、税金が高いと感じる人や、税金の使い道に不満を持つ人もいるからです。私たちが納める税金が無駄に使われているのではないかと心配もあります。そのため、私たち一人一人が税金の使い道に関心を持ち、必要に応じて意見を述べるのが大切だと思う。

まとめると、税は私たちの生活を支えるために欠かせないもので、社会全体の発展に役立っています。私自身もまだ税金について知らないことがたくさんあります。将来は税金を納める立場になることを考え、今後はもっと税金について学び、理解を深めたいと思います。税金の大切さを理解し、適切に使われるようにすることが、私たちの責任だと思います。